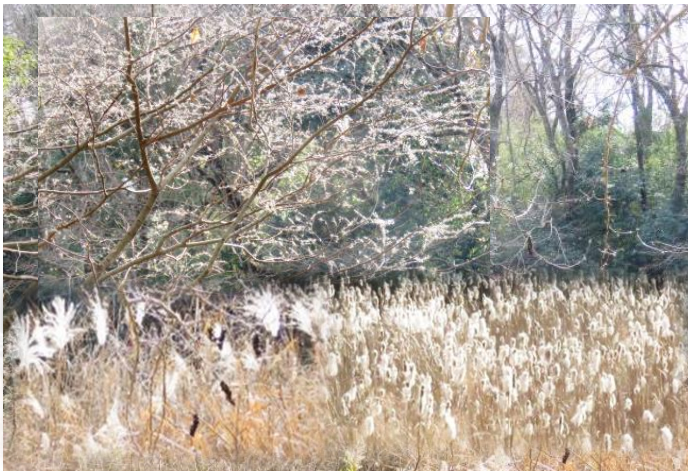


2024. 12. 20

木の葉が落ち、静まり返った里山に冬が到来しました。先月まで姿を見せていたカエルが冬ごもりに入ったのでしょうか？見かけなくなりました。田んぼには水が入り、「冬水田んぼ」の準備も整いました。風のない暖かい日はのんびり散策、この時期ならではの自然との出会いは結構楽しいものです。



ピオトープ周辺は、飛び立ったガマの穂で、まるで枯れ木に白い花が咲いたような光景です。

冬の風物詩：ガマの穂綿が飛ぶ

初夏に花穂をつけたあと、7月頃、褐色のフランクフルトのような姿になったガマの穂。種子が熟すのは晩秋。その頃から硬くしまった穂がほぐれて、綿毛のついた種子が風によって大量に飛散されます。種子は、長い毛を持ったパラシュートのようにタンポポの綿毛に似ていますがそれよりも軽くてはるかかなたまで飛んでいきます。風の強い日は、まるで雪が降っているようです。ヤナギのタネが飛ぶ様子を柳絮(りゅうじょ)といいます。飛ぶ様子はそれよりもずっと大量、広範囲で葉を落とした木々は白い花をつけたようです。



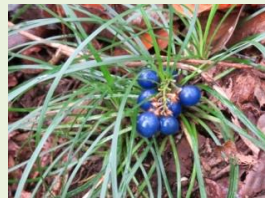
実生株が実をつけた！
センダンの木

5月に咲いた花 実 は鳥の大好物



ノウサギのふん 久しぶり！

冬の日の出会いを楽しむ



ジャノヒゲ



ヤブコウジ



マンリョウ



カントウタンポポ



ハルジオン



タチツボスミレ

<季節メモ> マンリョウ

一年中、緑の葉を茂らせ、赤い実をたわわに実らせることから、お正月の縁起物とされてきたマンリョウ。漢字で「万両」。両は江戸時代まで使われていた通貨の単位で、今の価値にして十万円とも。葉の縁が波打つのが特徴でそこには葉粒菌という細菌が多く潜在し、マンリョウの成長を補助するように共生しています。地面に落ちた葉から発根し、新たな株として成長できる力はこの葉粒菌のおかげ。菌を含んだ紅い実、強い発芽力を持ち、里山では至る所に生えています(我が家の庭にも)。生命力・繁殖力には感服、金運が上がることを期待してお正月飾りにも・・・

写真・編集 書間

